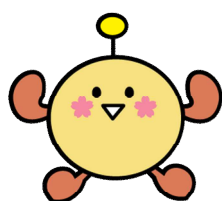
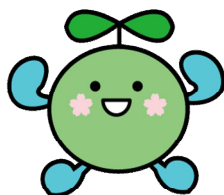


令和3年度

岡崎市こども発達センター事業報告



種の妖精
すーりん



葉っぱの妖精
くーりん



花の妖精
もーりん



センター長 あいさつ

お子さまの健やかな成長は すべての親の願いです

お子さまに関する不安や心配は 少しでも早く解消し 子育てを
楽しんでもいただきたいと考えています

当センターは 子育ての楽しさがどんどん増すよう全力で応援します

たとえ ちょっとした心配でも お気軽にご相談下さい

医療や支援の専門スタッフが あらゆる不安の解消に向け ころを込めて
お手伝いします

岡崎市こども発達センター長 早川 文雄

目次

第1 岡崎市こども発達センターの概要

1 理念・運営の方針・各センターの基本姿勢	1
2 建築概要	3
3 事業概要	3
4 職種体制	4
5 岡崎市の発達に心配のある子の早期支援システム	5

第2 こども発達相談センター

1 旧療育的支援事業（にこにこきっず1）	6
2 療育的支援事業（にこにこきっず2）	7
3 専門相談	9
4 電話相談	11
5 就園相談	12
6 就学時の相談・就学後支援	13
7 福祉サービス等個別相談	14
8 巡回支援	16
9 訪問支援	17
10 地域啓発（研修・出前講座）	18
11 各種会議	20

第3 こども発達医療センター

1 診療（初診・再診）	22
2 アセスメント	24
3 支援	25
4 啓発事業	27
5 その他の事業	28

第4 こども発達支援センター

1 児童発達支援事業（単独通所わかば・親子通所めばえ・保育後療育つばさ）	29
2 保育所等訪問支援事業（あおい）	32
3 日中一時支援事業（たんぼぼ）	33
4 相談支援事業	34

第5 SPC（PFI事業者）管理部門の事業

1 総合受付	35
2 託児室	35
3 オープン・スペース（一般開放の遊戯室）	36
4 体育館棟（有料施設）	36

※この事業報告における「発達」とは、発達障害者支援法に定める発達障がい及びその疑いを含むものを指しています。

第1 岡崎市こども発達センターの概要

1 理念・運営の方針・各センターの基本姿勢

岡崎市こども発達センターは 施設・職員が以下のコンセプトのもと
子どもの状況に合わせた支援を提供します

理念

発達に心配のある子どももそうでない子どもも ともに生まれ育った地域で
自分らしく生き生きと笑顔で生活できるよう 発達支援の拠点機能を果たします

運営の方針

発達に心配のある子どもが 早期に必要な相談・医療・支援を受けられるように
します

発達に心配のある子どもおよび不安を抱える家族が 持てる力・育つ力を最大限
に引き出す支援をします

保健・医療・福祉・教育機関のネットワークを構築し 切れ目ない発達支援体制
を整備します



各センターの基本姿勢

【こども発達相談センター】

～ともに気づき支える～

子どもの普段の様子や家族の困り感を丁寧に聞き
対応方法や必要な支援を保護者と一緒に考えます

発達に心配のある子をはじめ、発達障がいに関する
地域の理解を深める事業を行います

【こども発達医療センター】

～ともに向き合い受けとめる～

多方面から子どもの様子を確認し
発達評価や診断を行います

子どもの発達特性に合った医療的支援を行います

【こども発達支援センター】

～ともに受けとめ育む～

子どもの成長・発達状況に合わせた支援計画を作成し
適切な療育を行います

子どもがより良い環境で育つように
家族、支援者を対象に支援を行います

2 建築概要

所在地	愛知県岡崎市欠町字清水田6番地4		
敷地面積	8,560.82 m ²		
築年月	【こども発達センター】	平成29年4月	開所
	【体育館棟】	平成31年2月	開所
構造	【こども発達センター】 鉄筋コンクリート造(耐火建築物) 【体育館棟】 鉄筋コンクリート造(一部鉄筋鉄骨コンクリート造)		
階数	【こども発達センター】 地上3階、塔屋1階 【体育館棟】 地上1階、一部地上2階		
各床面積	【こども発達センター】 1階:1,456.27 m ² 2階:1,257.18 m ² 3階:1,362.05 m ² R階:15.36 m ² 合計:4,090.86 m ² (建築面積:3,304.17 m ²) 【体育館棟】 1,398.79 m ² (建築面積:1,415.6 m ²)		
最高の高さ	12.293m		
昇降機設備	26人乗り:1台、11人乗り:2台		
駐車台数	【こども発達センター】46台	【体育館棟】20台	合計66台
駐輪台数	【こども発達センター】6台	【体育館棟】10台	合計16台

3 事業概要

岡崎市こども発達センターの整備及び福祉の村の再整備は、民間の資金とノウハウを活用し効果的な公共サービスの提供を図るPFI手法で整備・運営している。全体的な運営・維持管理はSPC(特別目的会社)が行い、具体的な事業は、異なる事業主体が協力し事業を行う。なお、体育館棟は有料施設として利用が可能である。

岡崎市こども発達センター(すくも)			
名称	こども発達相談センター	こども発達医療センター	こども発達支援センター
場所	3階	3階	1・2階
運営主体	岡崎市こども部 ※令和元年度までは福祉部	岡崎市民病院	岡崎市福祉事業団 (指定管理)
事業内容	療育的支援事業 (にこにこきっず2) 専門相談 就園相談・就学相談 電話相談・個別相談 巡回支援と訪問支援 障がい児等療育支援事業	診察及び発達検査 アセスメント・グループ (はじめてさんの会) 個別リハビリテーション (ST言語/OT作業/CP心理) 集団リハビリテーション (年中・年長グループ)	親子通所療育(めばえ) 単独通所療育(わかば) 保育後療育(つばさ) 保育所等訪問支援(あおい) 障がい児相談支援事業 (こども発達支援センター・福祉の村相談支援事業所 分室) 保護者・きょうだいへの支援 地域の事業所支援者支援
対象	6歳まで(未就学児)の発達に心配のある子ども及びその保護者		
	発達障がい・知的障がい ※18歳までは教育機関等と連携して相談対応	発達障がい(知的障がいなし・軽度)	発達障がい・知的障がい

4 職種体制

(単位：人)

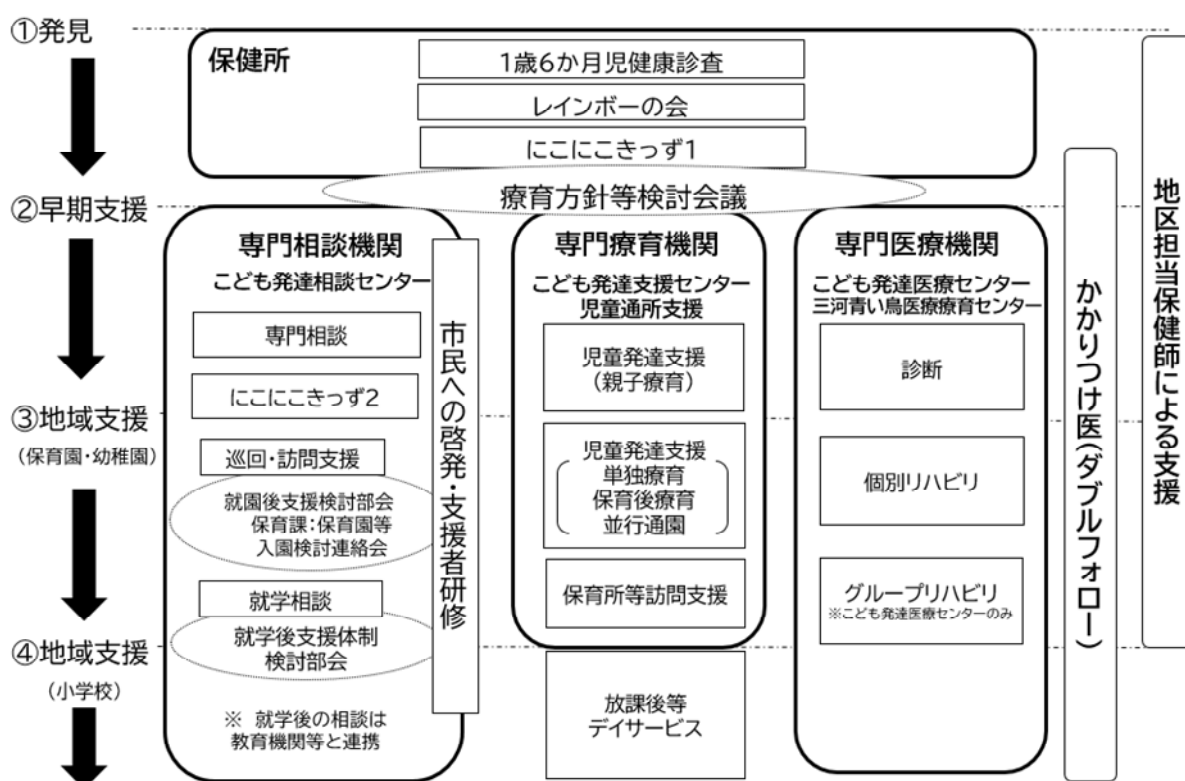
所属	職種	正規職員	非常勤職員	合計
こども発達 相談センター	保健師	2	1	18
	保育士	2	2	
	公認心理師・臨床心理士	4	0	
	社会福祉士	0	1	
	精神保健福祉士	1	0	
	教諭	2	0	
	事務職	3	0	
こども発達 医療センター	医師	3	5	28
	看護師	2	2	
	保育士	1	2	
	公認心理師・臨床心理士	3	1	
	作業療法士	2	0	
	言語聴覚士	3	0	
	事務職	0	1	
	医療秘書	0	1	
	受付	2	0	
こども発達 支援センター	保育士	19	22	69
	児童発達管理責任者	2	0	
	児童指導員（社会福祉士・介護福祉士）	0	2	
	看護師	1	1	
	臨床心理士	1	2	
	作業療法士	1	0	
	言語聴覚士	1	0	
	訪問支援員	1	0	
	管理栄養士	1	0	
	事務職	0	1	
	調理員	0	12	
	運転手	0	1	
	相談支援専門員	1	0	
合計		58	58	115

令和4年3月31日現在

5 岡崎市の発達に心配のある子どもの早期支援システム

岡崎市では、発達に心配のある子どもが1歳6か月健康診査後の早期から就学するまで、地域でスムーズに支援を受けられるよう早期支援システムを構築し、保健・福祉・保育・教育等の関係機関と継続的に協議しシステムの見直しを図っている。令和2年度の早期支援システム検討部会で課題の洗い出しを行い、早期発見や支援体制の拡充を図るために、令和3年度より新たなシステムの運用を開始した。令和3年度の主な変更点としては、保健所健康増進課で「レインボーの会」（1歳6か月児再健康診査）が始まると共に、令和2年度までこども発達相談センターの療育的支援事業として実施していた「にこにこきっず1」を健診事後教室として事業移管した。「レインボーの会」・「にこにこきっず1」の利用を通して、早期にその子どもに合った相談先や支援につなぐことを目指している。

令和3年度 岡崎市早期支援システム図



第2 こども発達相談センター

1 旧療育的支援事業（にこにこきっず1） ※令和3年度から健康増進課へ事業移管

(1) 目的

健康増進課事業のレインボーの会（再健康診査）で発達の遅れを認めた子どもに対し、健診事後教室として親子遊びや集団遊びを通じて子どもの発達の遅れを精査する。発達の状況に合わせた支援先を紹介するとともに、保護者が子どもへの適切な対応を学ぶ

(2) 対象

初回参加時点の年齢が2歳0か月から2歳7か月で、以下に該当する子ども

ア レインボーの会で要観察となった子どものうち、利用が適当と判断された子どもと保護者

イ ア以外で健康増進課が必要と判断した子どもと保護者

(3) 従事者

保健師、保育士、精神保健福祉士

(4) 実施状況

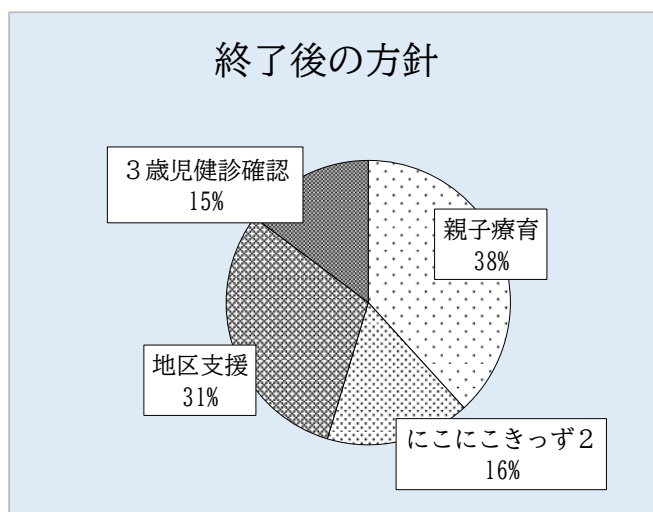
ア 年度別実績（総数・延べ人数・会場・開始参加年齢）

（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数（実人数）		249	209	177	223	210
延べ人数		2,045	2,154	1,818	1,109	840
会場	岩松保育園	41	41	33	47	-
	六ツ美中保育園	52	37	34	36	-
	藤川保育園	52	35	-	-	-
	竜谷保育園	-	-	34	53	-
	島坂保育園	46	48	39	39	-
	岡崎げんき館	58	48	37	48	-
開始参加年齢	1歳7か月～1歳9か月	111	121	91	64	-
	1歳10か月～2歳0か月	103	56	54	121	-
	2歳1か月～2歳3か月	21	31	26	35	-
	2歳4か月～2歳6か月	14	1	6	3	-

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響：令和3年7月～9月・令和4年1月～2月は事業を一部中止、その他の期間は参加回数・参加人数を縮小して実施。また会場は保育園での開催を中止し、こども発達センター体育館棟及び歯科総合センターに変更。中止期間の遅延分を解消するため、令和3年12月から開催回数を週4回から週5回に変更

イ 令和3年度 終了後の方針



(5) 考察

令和3年度からレインボーの会が始まり、にこにこきっず1に案内される子どもは令和2年度に比べてスクリーニングが進み、親子療育等の早期の発達支援が必要な子どもが大半を占めた。2歳児の段階で就園している子どもについては、親子療育が適当と判断されても、かかりつけ医への受診勧奨や健康増進課の地区担当保健師の継続支援の方針とした。運用については、今後も定期的に健康増進課と協議していく。

2 療育的支援事業（にこにこきっず2）

(1) 目的

小集団において発達の遅れや特性の気づきや理解を促し、早期に適切な支援に結び付けるとともに、専門職のもとで集団活動の機会が増える前に社会性を育む場を提供する

(2) 対象

にこにこきっず1や専門相談等から案内された当該年度に満3歳を迎える、以下のア・イに該当する子どもとその保護者

ア 集団生活（就園を想定）の前に、社会性を育む体験が必要とされている

イ 発達に関する育児相談や就園相談等で利用が必要と判断されている

(3) 従事者

保健師、保育士、言語聴覚士、臨床心理士、教諭

(4) 実施状況

ア 年度別実績（総数・会場）

（単位：人）

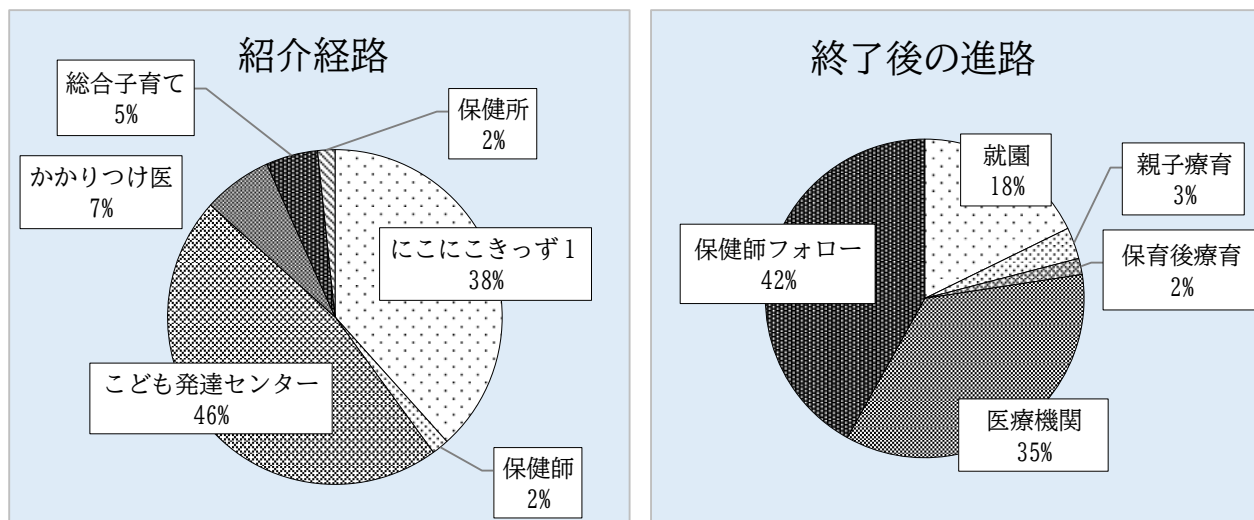
区分		R1		R2		R3	
		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
総数		90	1,254	71	690	59	1,113
会場名	総合子育て支援センター	25	359	-	-	-	-
	岡崎女子大学	32	415	-	-	-	-
	岡崎げんき館	33	480	20	202	15	220

	こども発達センター	-	-	26	265	16	327
	こころん	-	-	25	223	17	342
	六ツ美南保育園	-	-	-	-	11	224

※令和2年度から、実施主体を総合子育て支援センターからこども発達相談センターへ移管し、委託事業として実施

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響：令和2年4、5月は事業を中止し電話による個別フォローを実施。令和3年1月は全会場1回ずつ中止。令和3年9月から六ツ美南保育園会場を、こども発達センター体育館棟（研修室）に変更

イ 令和3年度 紹介経路・終了後の進路



(5) 考察

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、登録人数は維持したまま会場に入れる人数と参加回数を制限した。令和2年度は一時的に登録人数が増えたものの、親子一組が年間を通して参加できる回数は減った。令和3年度は、療育的支援の主旨に基づき、参加回数を制限前に戻して実施した。会場及び受入れ人数を増やしたが、令和2年度と比較すると実人数が減り、延べ人数が増える結果となった。レインボーの会の開始によりスクリーニングが進んだ結果、終了後の進路は親子療育・保育後療育が減少したと考えられる。コロナ禍のため、感染への不安による欠席で参加率が低下したり、提供できる遊びに制限が生じるなど影響が続いている。今後も感染拡大に注意し、利用者のニーズを確認し取り組んでいく。

3 専門相談

(1) 目的

発達に心配のある子どもと保護者に対し、子どもの観察及び将来を見据えて成長発達のために必要な助言・相談を行うことで、早期に必要な支援に結び付ける

(2) 対象

主に発達に心配のある就学前の子とその保護者

(3) 従事者

公認心理師、保健師

(4) 実施状況

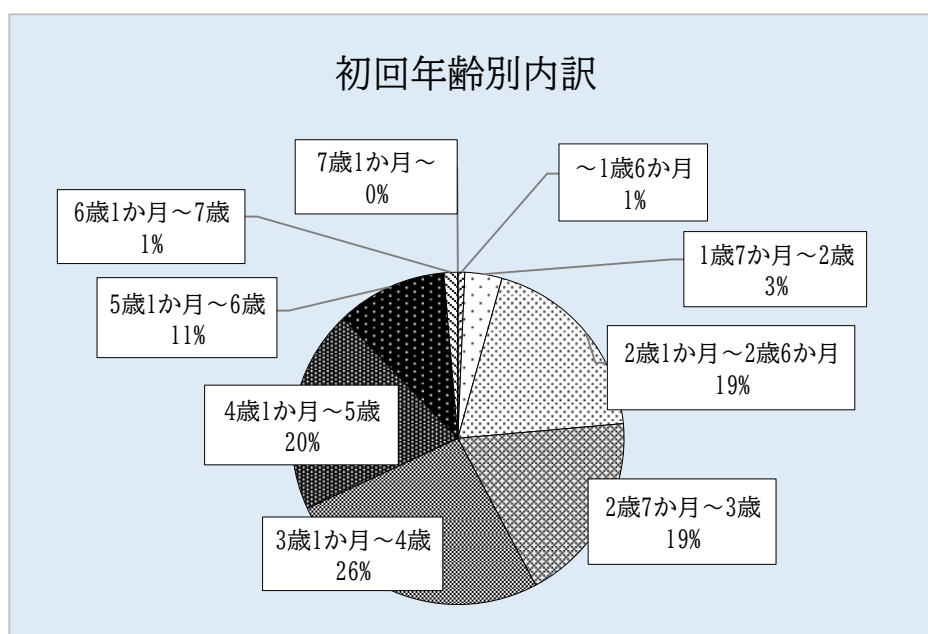
ア 年度別実績（総数・居住地・回数・初回年齢別内訳）

（単位：人）

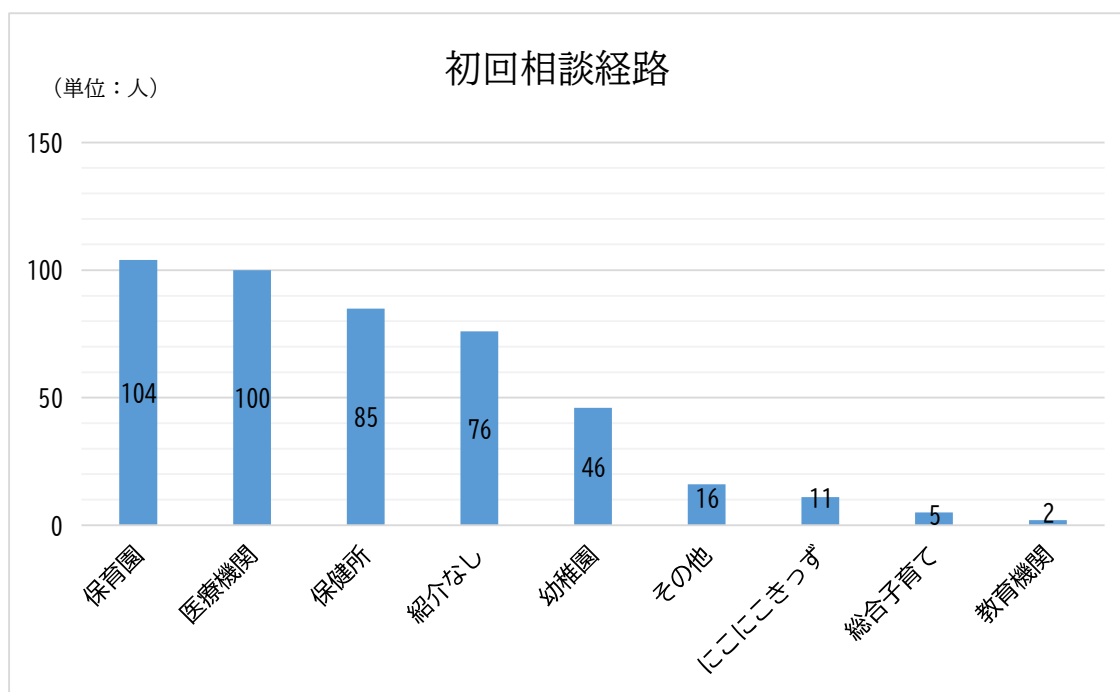
区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		431	469	416	556	601
居住地	岡崎市	422	460	405	534	563
	幸田町	9	9	11	18	35
	上記以外・不明	0	0	0	4	3
相談回数	初回	330	395	350	449	445
	継続	101	74	66	107	156
初回年齢別内訳	～1歳6か月	15	0	0	3	3
	1歳7か月～2歳		43	53	55	16
	2歳1か月～2歳6か月	105	92	71	114	86
	2歳7か月～3歳		67	45	72	83
	3歳1か月～4歳	78	77	77	93	115
	4歳1か月～5歳	73	49	57	63	88
	5歳1か月～6歳	38	62	38	44	48
	6歳1か月～7歳	21	4	7	5	6
	7歳1か月～	0	1	2	0	0
	計	330	395	350	449	445

※平成29年度は年齢別の統計を1歳ごとに計上、合算した数値を記載

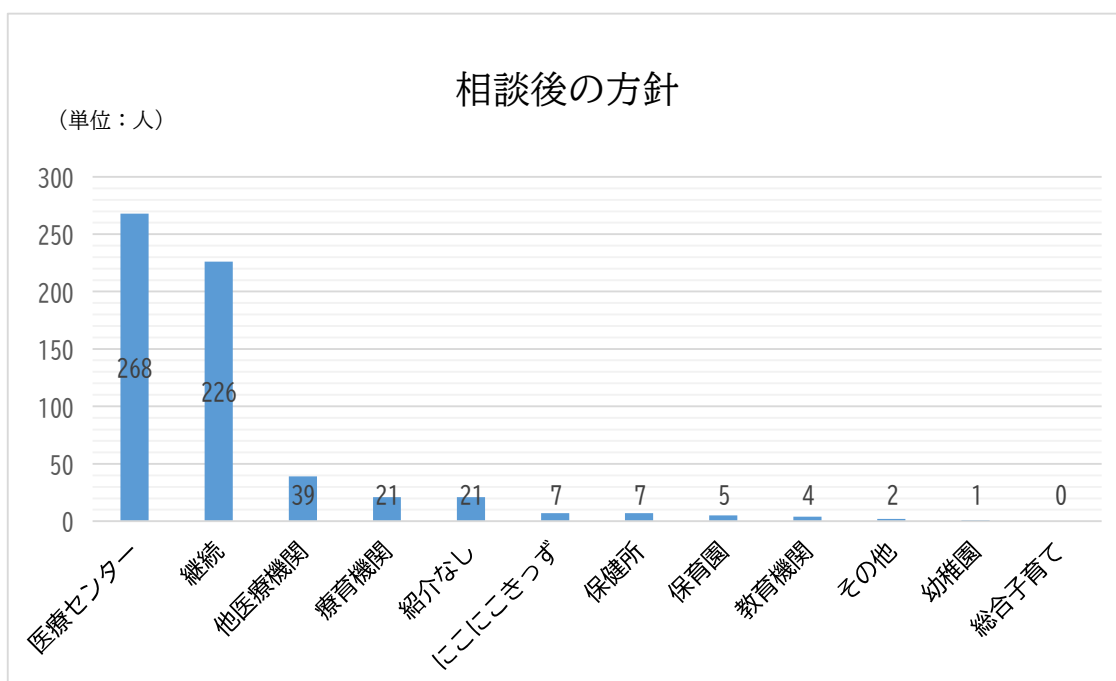
イ 令和3年度 初回年齢別内訳



ウ 令和3年度 初回相談経路



エ 令和3年度 相談後の方針



(5) 考察

相談件数は増加傾向にあり、令和3年度は令和2年度までと比べ、初回来所時年齢が2歳以下の相談件数が大きく減少した。背景として、令和3年度からレインボーの会が開始し、2歳までの発達におけるスクリーニングの場が統一されたことが考えられる。

また、初回相談件数は令和2年度と比べて大きな増加がなかった一方で、継続相談件数が増加したことにより、全体の相談件数も増加している。

4 電話相談

(1) 目的

発達に心配のある子どもの保護者等からの電話に対して必要な助言・相談を行い、早期に必要な支援に結び付ける

(2) 対象

主に発達に心配のある就学前の子どもとその保護者

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、精神保健福祉士等

(4) 実施状況

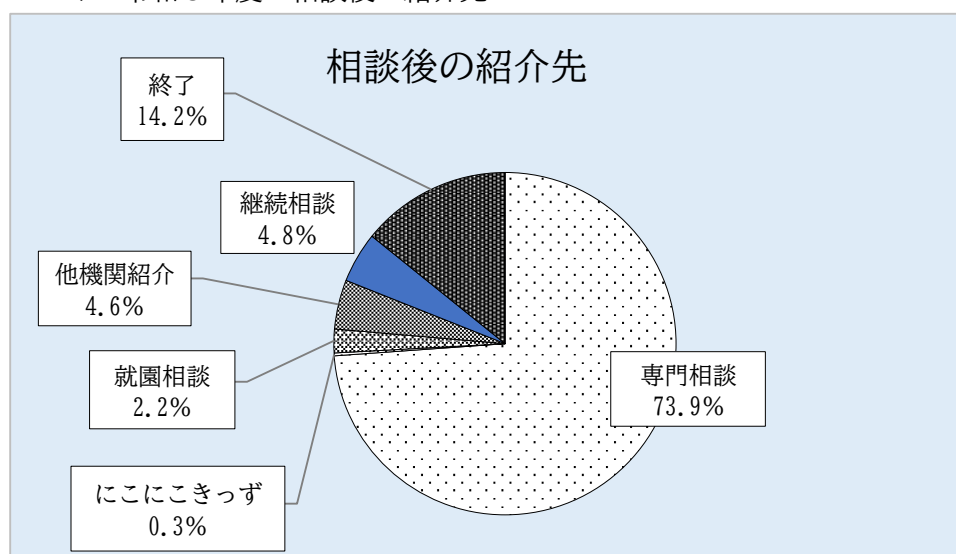
ア 年度別実績（総数・居住地・年齢）

（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数（内、発達相談数）		585（361）	554（282）	745（482）	1,499(657)	1,427(754)
居住地	岡崎市	345	269	450	609	702
	幸田町	8	9	16	29	35
	その他・不明	8	4	16	19	17
年齢	0歳	4	0	2	0	4
	1歳	17	29	78	72	42
	2歳	139	87	140	246	219
	3歳	61	54	92	130	215
	4歳	67	42	80	98	142
	5歳	36	35	58	54	70
	6歳	17	16	11	15	15
	7歳以上	20	19	21	42	47

※居住地・年齢は発達相談数の再掲

イ 令和3年度 相談後の紹介先



(5) 考察

問合せ等を含めた電話相談の総数は、令和2年度から約70件減少し、発達に関する相談数は約100件増加した。対象年齢をみると1歳児は令和2年度から30件減り42件になった。令和3年度から、基本的に1歳6か月児健診で要観察になった子どもはレインボーの会を案内するため、1歳児の相談数が減少したと考えられる。その中でもニーズのある保護者からは相談が入り、対応している。

また、2～4歳児の相談件数が多く、昨年と比べ3歳児は約90件、4歳児は約50件の増加がみられた。就園してから集団活動を通じて保護者のニーズ（困りごと）が明確になってくると、また保育園や幼稚園から適切な案内があることが、3・4歳児の電話相談の増加につながったと考えられる。

5 就園相談

(1) 目的

発達に心配のある子どもの保護者等に対し、就園に向けてのシステムを説明し就園先について助言することで、適切な就園に結び付ける

(2) 対象

発達に心配のある就園前の子どもの保護者

(3) 従事者

保育士

(4) 実施状況

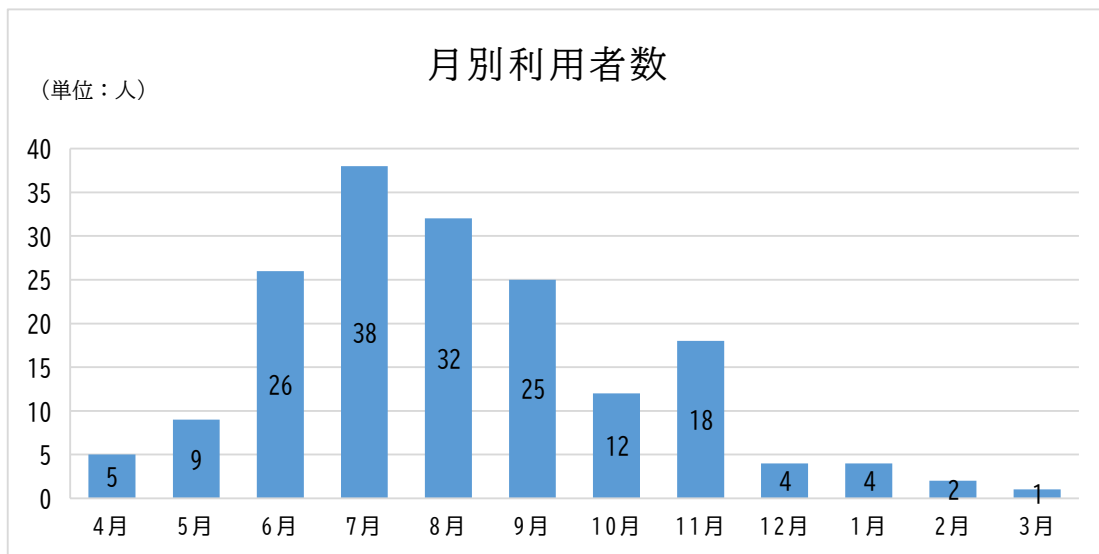
ア 年度別実績（総数・居住地・回数・年齢）

（単位：人）

区分		R2	R3
総数		190	157
居住地	岡崎市	190	157
	幸田町	0	0
回数	初回	104	150
	継続	86	7
年齢	～1歳6か月	3	3
	1歳7か月～2歳0か月	8	12
	2歳1か月～2歳6か月	84	98
	2歳7か月～3歳0か月	76	36
	3歳1か月～4歳0か月	19	5
	4歳1か月～	0	2

※令和2年度から、総合子育て支援センターからこども発達相談センターへ事業を移管

イ 令和3年度 月別利用者数



(5) 考察

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、専門相談に来所する就園を控えた子どもについては、専門相談で保護者の同意を得て情報を共有し、電話で状況を確認するなど対応方法を工夫した。相談総数の減少は出生数の減少が一因として考えられるが、相談総数が減少する中でも、3歳未満で就園を希望する保護者からの相談は増加している。就園に向けた見学や申込み時に、レインボーの会やにこにこきっず1の対象であることを園が把握し、園から保護者に発達相談を勧奨するケースが目立っている。今後も子ども・保護者がスムーズに園生活を送れるよう、保護者への相談に対応していく。

6 就学時相談・就学後支援

(1) 目的

就学後の小学校において子どもの特性に応じた配慮や支援が円滑に行われるよう、就学に向けて教育相談を行う。また、就学後の状況を把握し、学習等の学校生活が安定するように保護者・子どもへ支援を行う

(2) 対象 ※ア、イ共に該当すること

ア 就学時相談：こども発達医療センターから、保護者の了解を得て紹介された年長児

イ 就学後支援：こども発達相談センターで就学の相談を行い、保護者と共に作成した「サポート情報」を小学校に提供した小学校3年生までの子ども

(3) 従事者

教諭

(4) 事業内容

ア 入学前に就学相談を行う

(ア) こども発達医療センターからの情報を基に、就学に関する相談を行う

(イ) 保護者と共に就学後「サポート情報」作成する

(ウ) 「サポート情報」を学校に届け、説明を行う

イ 入学後、就学後支援として、保護者への電話相談及び学校訪問を行い、子どもの状況を観察・把握しつつ、保護者・子どもを中心に支援する

(ア) 保護者へ生活状況等に関するアンケートを実施し、希望する保護者へ電話相談を実施する

(イ) 小学校に対して訪問希望日調査・事前アンケートを行い、学校を訪問し子どもの観察を行う

(5) 実施状況

ア 就学時相談 年度別実績

(単位：人)

年度	合計		性別(実人員)		在園先(実人員)			居住地別(実人員)	
	延べ人数	実人員	男	女	保育園	幼稚園	その他	岡崎市	幸田町
H30	21	21	18	3	14	7	0	21	0
R1	76	71	59	12	42	29	0	63	8
R2	104	95	64	31	52	43	0	94	1
R3	87	86	-	-	42	44	0	84	2

イ 就学後支援(学校訪問による子どもの観察、保護者への電話相談) 年度別実績

年度	対象	対応	対象数
R1	新就学児 (H30 年度年長児)	学校訪問	26 件 医療センター紹介：21 件 在学児：5 件
R2	新就学児 (R1 年度年長児)	電話による保護者への聞き取り 電話による担任への聞き取り	保護者：65 件/69 件中 担任：68 件/69 件中
R3	小学校 1 年生・2 年生・3 年生	学校への訪問・観察(5・6 月) 担任へのアンケート(転校等で回答できないケースあり)	182 件 ※アンケート内訳 1 年生：94 件、2 年生：68 件、3 年生：20 件
	新就学児の保護者	電話相談希望アンケート送付 希望者への電話相談(R4.2 月)	51 件/94 件中 16 件/51 件中

(6) 考察

就学前・就学後(小学校 3 年まで)の保護者及び子どもへの支援が、「就学時相談」担当者の中心的な業務であると業務内容を明確にしてきた。令和 3 年度の 1 学期学校訪問、3 学期保護者への電話相談は、その具体例になると考える。

7 福祉サービス等個別相談

(1) 目的

継続した療育の必要性がある子どもの保護者に対し、福祉サービスに関する情報提供や個々のニーズに応じた個別相談・支援を行う

(2) 対象

こども発達センターを利用する就学前の子どもの保護者

(3) 従事者

保健師、精神保健福祉士、社会福祉士

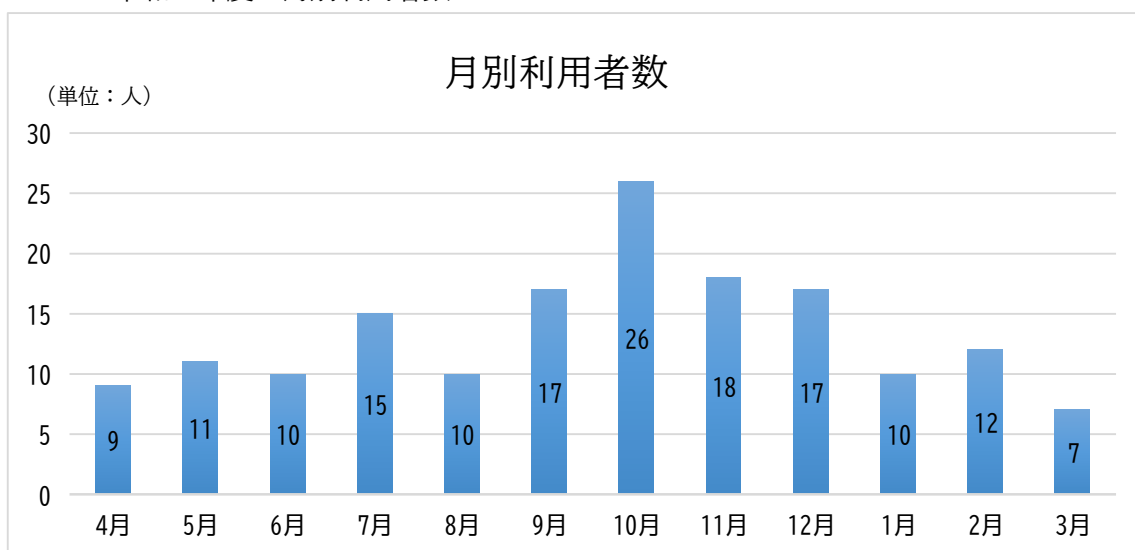
(4) 実施状況

ア 年度別実績（総数・相談種別・年齢）

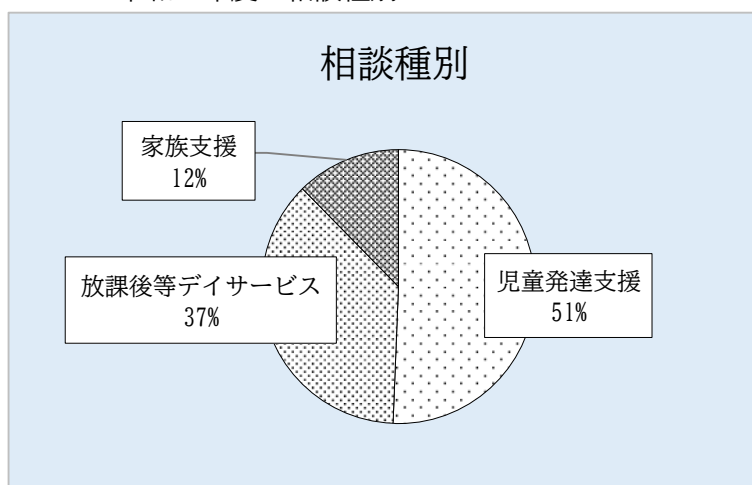
（単位：人）

区分		H30	R1	R2	R3
総数		90	82	165	162
相談種別	児童発達支援	46	44	96	82
	放課後等デイサービス	27	29	52	60
	家族支援	17	9	17	20
年齢	1歳児	4	0	3	8
	2歳児	21	17	22	11
	年少児	24	15	39	41
	年中児	12	19	41	37
	年長児	28	31	58	64
	小学1年生	1	0	2	1

イ 令和3年度 月別利用者数



ウ 令和3年度 相談種別



(5) 考察

相談人数・月別利用者数・相談種別とも、令和2年度と比べて概ね大きな変化は見られなかった。1歳児では、早期療育を勧められたことへの不安や戸惑いを抱えた保護者からの相談が増えており、2歳児はレインボーの会やにこにこきっず1などの利用により、相談件数が減少したと考えられる。なお、福祉サービスの情報提供にあたり、利用希望や支援の必要性和支援体制（受け皿となる事業所の数や支援内容）のマッチングが難しい場合があり、今後現状の把握や分析が必要と考える。

8 巡回支援

(1) 目的

発達障がいと診断を受けた子ども及び発達に心配のある子どもの主な日中活動の場である園に対し、現状の把握やこども発達相談センターの事業説明を行い、発達に心配のある子どもが豊かな園生活を送るための基盤づくりを推進する

(2) 対象

岡崎市内の公私立保育園・公立認定こども園・私立幼稚園の支援者
※私立幼稚園は幸田町も含む

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、精神保健福祉士

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 公私立保育園・公立認定こども園 (単位：回)

区分	R2	R3
総数	110	109
公立保育園	68	67
私立保育園	36	36
公立認定こども園	6	6

※令和2年度から、総合子育て支援センターからこども発達相談センターへ事業を移管
※令和2年度は各園年間2回ずつ巡回予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部電話で状況確認を実施

(イ) 私立幼稚園 (単位：回)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		33	25	25	25	25
所在地	岡崎市	30	22	22	22	22
	幸田町	3	3	3	3	3

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部書面で状況確認を実施

(5) 考察

各種専門職が巡回支援に従事することで、園の職員に対して幅広く支援を提供することができた。

私立幼稚園の巡回支援事業については、平成 29 年度から継続的にこども発達相談センターの事業内容を周知することを目的として実施している。私立幼稚園が、活用可能なこども発達相談センターの事業を理解し、利用の主旨や利用に関する手続きを、対象児の保護者や園の職員に説明できることを目指している。令和 3 年度は、こども発達相談センターから案内している支援に対して利用を希望する園が増えており、今後も支援の周知・啓発を進めると共に各私立幼稚園との連携を深める必要性があると感じている。

9 訪問支援

(1) 目的

発達に心配のある子どもとそれにより具体的な困りごとを抱える支援者に対し、主に日中活動の場となる保育園等に出向き、現場で活かせる対応や支援の検討を行うことにより、保護者と支援者の協力関係を築きやすくし、発達に心配のある子どもと保護者の生活基盤づくりを推進する

(2) 対象

岡崎市・幸田町内にある保育園、幼稚園、認定こども園の支援者及び、園を利用する発達に心配のある子どもと保護者

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、精神保健福祉士等

(4) 実施状況

ア 年度別実績（施設数・延べ人数・所在地・分類・年齢）（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
施設数		2	9	10	7	13
延べ人数		2	14	27	15	16
所在地	岡崎市	2	14	27	14	16
	幸田町	0	0	0	1	0
分類	幼稚園	1	13	19	11	11
	保育園・こども園	1	1	8	4	5
年齢	1 歳児	－	0	0	0	0
	2 歳児	－	0	0	0	1
	年少児	－	4	7	8	4
	年中児	－	7	4	2	8
	年長児	－	3	16	5	3

(5) 考察

令和 3 年度は、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置期間と事業実施時期が重なったケースは、2 ケースを中止、2 ケースを令和 4 年度に延期とした。

訪問支援を希望する園が増加し、園長会等で定期的に事業を周知していることが事業への理解につながっていると推察される。今後も訪問支援の実施方法について、こども発達相談センター内で検討を重ね、さらなる充実を図りたい。

年齢別では年中児に関する利用が多かった。年中児になると、多くの園児は園の環境に慣れ安定していく。ただ、発達特性を抱える子どもや気になる子どもはそうでない子どもと比べて、生活状況に差が生じる可能性があり、園の支援者が懸念を感じ支援に繋げる機会が増えていると考えられる。また、発達特性を抱える子どもや気になる子どもは、就園前・就園後早期から支援を要する可能性が高いため、保護者や支援者に早期発達支援の情報を提供することも求められていると考えられる。

10 地域啓発（研修・出前講座）

(1) 目的

支援者ならびに一般市民が、発達障がいに関する知識・理解を深め、発達障がいのある子どもが暮らしやすい地域づくりを推進する

(2) 対象

発達に心配のある子どもや発達障がいのある子どもの保護者及び支援者、一般市民

(3) 従事者

保健師、保育士、公認心理師、教諭等

(4) 実施状況

ア 支援者向け研修

(単位：人)

日時	名称等	内容	参加人数
4月5日	保健所勉強会	こども発達センターについての説明会	22
4月5日	こども発達医療・相談センター職員向け研修	令和3年度岡崎市早期支援システムに係る説明会	18
4月7日	公私立保育園・公立認定こども園園長会	令和3年度岡崎市早期支援システムに係る説明会・園訪問時の個別対応・訪問支援・専門相談についての説明	56
4月12日	こども発達支援センター職員向け研修	令和3年度岡崎市早期支援システムに係る説明会	28
4月14日	こども発達医療・相談センター職員向け研修	令和3年度岡崎市早期支援システムに係る説明会	20
5月6日	細川小学校現職教育研修	発達障がい児童への対応について	40
5月12日	地区子育て支援センター園長会	岡崎市早期支援システムに係る説明会、にこにこきっず1の説明	4
5月13日	竜美丘小学校現職教育研修	支援を必要とする児童への対応	50
5月18日	私立保育園 園長会	こども発達センター及び岡崎市早期支援システムに関する説明	22

5月24日	NP0 法人支援者向け研修	こども発達センター及び岡崎市早期支援システムに関する説明	10
5月27日	公立保育園 園長会	発達センター及び岡崎市早期支援システムに関する説明	45
5月27日	矢作西小学校現職教育研修	児童観察及び、講話・助言	20
6月30日	公私立保育園職員対象 障がい児連続研修 1班	岡崎市の発達を支えるネットワークについて、保育の記録及び発達支援計画について	32
7月13日	公私立保育園職員対象 障がい児連続研修 2班	岡崎市の発達を支えるネットワークについて、保育の記録及び発達支援計画について	32
10月4日	保健所発達勉強会	発達検査、児童発達支援について	14
11月1日	放課後児童クラブ支援員研修	配慮・支援を必要とする子どもたちと対応	77
11月8日	放課後児童クラブ支援員研修	配慮・支援を必要とする子どもたちと対応	77
12月14日	放課後児童クラブ支援員研修	配慮・支援を必要とする子どもたちと対応	35
2月24日	公立保育園園長会	レインボーの会・にこにこきっずについての説明	45
3月11日	私立保育園園長研修	岡崎市の発達を支えるネットワークについて、インクルーシブ教育士の養成について	20
3月17日	私立保育園主任研修	岡崎市の発達を支えるネットワークについて、インクルーシブ教育士の養成について	21

イ 市民向け研修

(単位：人)

日時	対象	内容	参加人数
5月27日	親子通所施設利用児の保護者	就園の説明	18
8月1日	親子通所施設利用児の保護者	就園の説明	40

ウ 出前講座

(単位：人)

日時	対象	内容	参加人数
10月27日	秦梨小学校 (就学時健診に来所した保護者)	入学準備に必要な心構え	7

11月4日	矢作北小学校 (就学時健診に来所した保護者)	入学準備に必要な心構え	130
11月11日	北野小学校 (就学時健診に来所した保護者)	入学準備に必要な心構え	100

(5) 考察

地域啓発活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、令和2年度と同程度実施することができた。実施に際し、安全を考慮して少人数での研修開催が多く、参加人数は前年に比べると減少した。令和3年度は児童育成センター等、今まで依頼を受けたことのない機関からの依頼もあり、発達障がいに関する地域の関心の高さが伺えた。また、令和3年度はレインボーの会が始まり、岡崎市早期発達支援システムに関係する機関へ事業説明や情報共有を行った。今後も地域全体で”気になる子”を支える地域作りに力を入れていきたい。

11 各種会議

名称	目的	参加機関	実績(実施回数・日程・内容等)
岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議	関係機関と発達センターの連携、地域支援のネットワーク構築と地域の支援力向上	岡崎市医師会、岡崎歯科医師会、学識経験者、相談支援事業所、児童発達支援事業所、三河青い鳥医療療育センター、西三河福祉相談センター、障がい福祉課、健康増進課、保育課、教育委員会	第1回：7月20日（WEB開催） 第2回：2月1日 こども発達センターの各事業及び早期支援システムの評価、各検討部会の報告と次年度検討課題の決定
早期支援システム検討部会	早期支援システムについて関連する機関の連携と、よりよい支援体制の構築に関する検討	児童発達支援事業所、相談支援事業所、障がい福祉課、健康増進課、保育課、学校指導課	第1回：6月15日（書面開催） 第2回：9月21日 第3回：11月16日（書面開催） 第4回：1月18日 早期支援システムの新評価指標の検討・半期の評価、新早期支援システム構築の評価
早期支援開始検討部会	発達に心配のある子どもの早期支援体制（新システム）の課題検討	児童発達支援事業所、健康増進課	検討部会4回、分会12回 療育的支援事業実施体制変更に伴う新発達支援体制の構築、親子通所療育等の検討 分会は療育的支援事業（にこにこきっず1）、レインボーの会の新体制の事業計画

就園後支援体制検討部会	発達センター利用児等の支援継続と、就園後のよりよい支援体制の検討	児童発達支援事業所、相談支援事業所、三河青い鳥医療療育センター、幸田町、障がい福祉課、健康増進課、保育課	第1回：10月28日 第2回：11月8日 第3回：11月12日 第4回：11月17日 わかば新規利用希望児及びわかばから就園等移行希望児の検討、情報共有
就学後支援体制検討部会	発達医療センター利用児の継続就学時支援とよりよい就学支援体制の検討	幸田町、保育課、教育委員会、教育相談センター	3回（書面会議） 主に年長児の専門的な配慮や支援について、就学後に切れ目なく連携するための体制構築
療育方針検討会議	発達センター利用児のケース検討	関係機関、こども発達センター	3回（延べ11ケース） 支援方針の検討やケースの情報共有、困難事例への協力体制の構築等

※ 岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議は、令和2年度より懇談会として実施

※ 療育方針検討会議は、令和4年度から「こども発達センターケース会議」に変更

第3 こども発達医療センター

1 診療（初診・再診）

(1) 目的

ア 初診

対象となる子どもの心理・発達検査や遊びの様子を観察するとともに、保護者から家庭や園での様子を聴取する

イ 再診

初診で収集した情報をもとに、特性説明・診断告知・適切な支援プランの提案などを行う。また、定期診察が必要と判断された子どもに対し、発達の経過や生活の状況を観察・評価を行い、保護者に助言する

(2) 対象

かかりつけ医及びこども発達相談センター専門相談の紹介を受けた、発達に心配のある就学前の子どもとその保護者

(3) 従事者

医師、看護師、保育士、公認心理師

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 受診児数

(単位：人)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		4,462	7,015	6,941	7,629	7,109
受診児数	初診児数	520	436	529	472	391
	再診児延べ数	3,942	6,579	6,412	7,157	6,718

(イ) 初診児の居住地別内訳

(単位：人)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		520	436	529	472	391
居住地	岡崎市	488	403	467	434	361
	幸田町	32	33	62	38	30

(ウ) 再診児の居住地別内訳

(単位：人)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		3,942	6,579	6,412	7,157	6,718
居住地	岡崎市	3,634	6,091	5,766	6,507	6,177
	幸田町	308	488	646	650	541

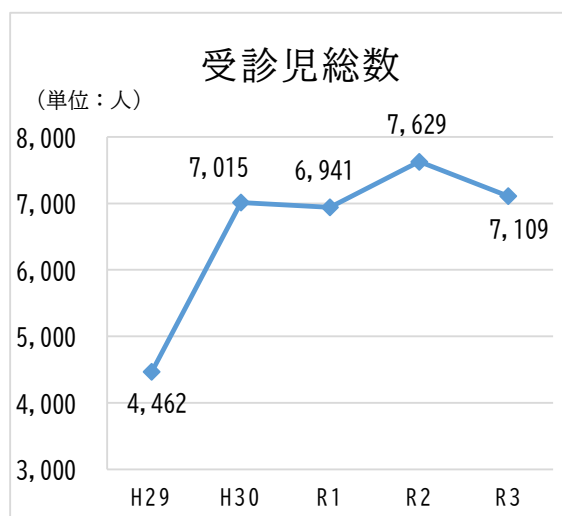
(エ) 予約から初診までの平均待機日数

(単位：日)

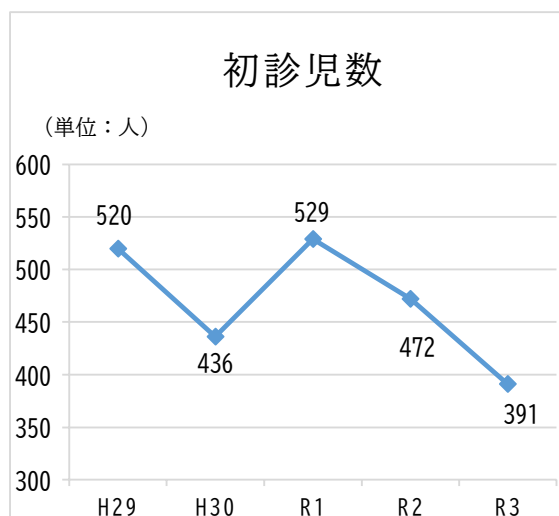
区分	H29	H30	R1	R2	R3
予約から初診までの平均日数	35	46	89	42	50

イ 年度別推移

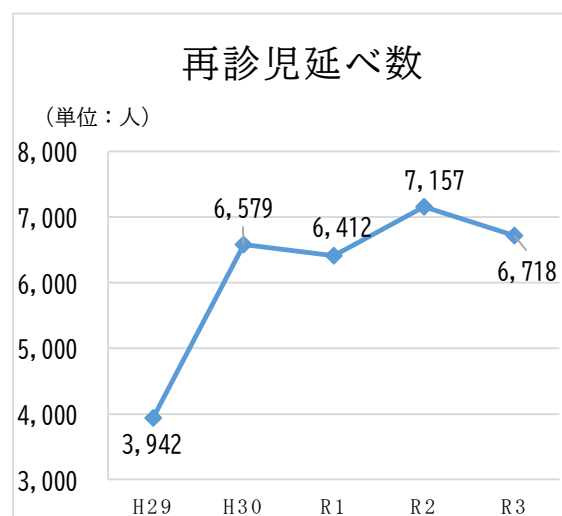
(ア) 受診児総数



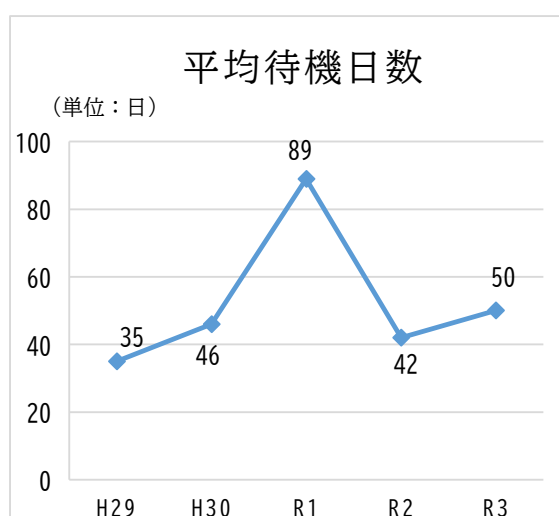
(イ) 初診児数



(ウ) 再診児延べ数



(エ) 平均待機日数



(5) 考察

こども発達医療センターの目標を「適切なタイミングで必要な支援の提供を行う」と掲げ、予約から初診までの平均待機日数を3ヶ月以内にするように努めている。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による体調不良や休園措置によるキャンセルが多く、受診数は全体的に減少傾向となった。

今後も3ヶ月以内の平均待機日数を維持し、効率的な診察枠の運用が可能となるよう定期的に見直しを図っていくことで、利用者へのサービス向上を目指したい。

2 アセスメント

(1) 目的

ア 発達検査

診断や支援方針の検討のため、必要に応じて医師の指示のもと公認心理師などが子どもの現在の発達段階について評価を行う

イ はじめてさんの会

初診後、6人程度の小集団を設定し、集団場面の様子を観察・評価する。様々な専門職が同席し、ひとりの子どもの多角的に評価することで、より適切な支援方針を検討する

(2) 対象

医師の指示に基づくケース

(3) 従事者

医師、公認心理師、言語聴覚士、作業療法士、保育士

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 発達検査実施数

(単位：件)

区分	H29	H30	R1	R2	R3
発達検査実施数	390	467	557	594	524

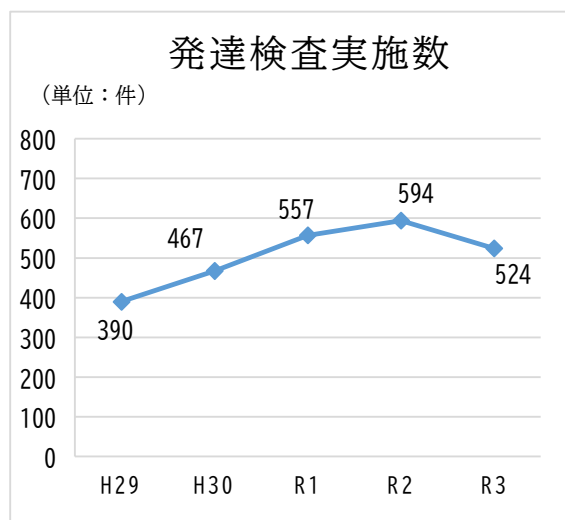
(イ) はじめてさんの会

(単位：人)

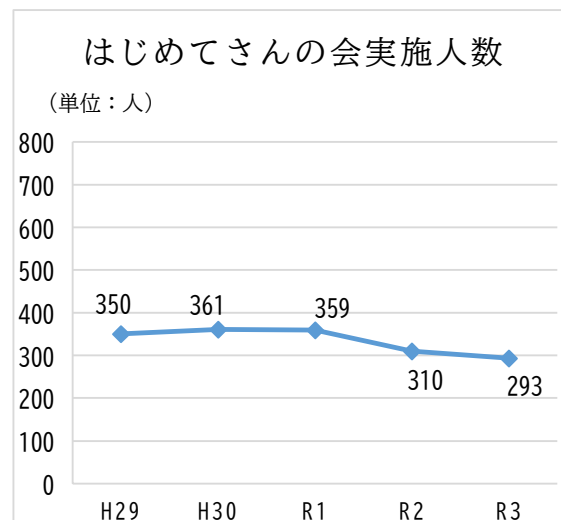
区分	H29	H30	R1	R2	R3
実施人数	350	361	359	310	293

イ 年度別推移

(ア) 発達検査実施数



(イ) はじめてさんの会実施人数



※はじめてさんの会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により令和2年4月13日～5月25日、令和3年5月21日～6月21日、令和3年8月27日～9月27日の期間中止

(5) 考察

令和3年度は、他機関と連携することで、対象となる子どもが日常的に利用している施設などでの検査が可能となり、検査実施数が減少した。

はじめてさんの会の実施人数は昨年と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による中止を除き、増減なく推移している。

3 支援

(1) 目的

1対1もしくはグループで医療専門職等が関わる中で「長所や特性の理解の促し」「問題行動の対応やアドバイス」を実施し、子どもの生活での適応と保護者の特性理解を促す

(2) 対象

医師の指示に基づく、コミュニケーションや身体運動・感覚等に偏りがみられる子ども及び不安の強い保護者

(3) 従事者

言語聴覚士、作業療法士、公認心理師、保育士

(4) 実施状況

ア 年度別実績

(ア) 言語療法延べ実施数 (単位：件)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		1,458	2,387	1,955	2,476	1,968
居住地	岡崎市	1,286	2,217	1,710	2,190	1,758
	幸田町	172	170	245	286	210

(イ) 作業療法延べ実施数 (単位：件)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		450	753	1,354	1,581	1,367
居住地	岡崎市	419	703	1,241	1,473	1,310
	幸田町	31	50	113	108	57

(ウ) 心理面接延べ実施数 (単位：件)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		368	733	474	496	417
居住地	岡崎市	355	684	439	461	382
	幸田町	13	49	35	35	35

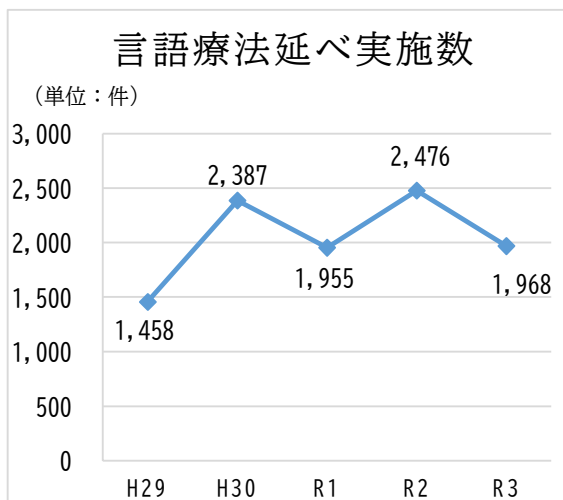
(エ) グループ支援延べ実施数 (単位：件)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
総数		382	535	354	170	414

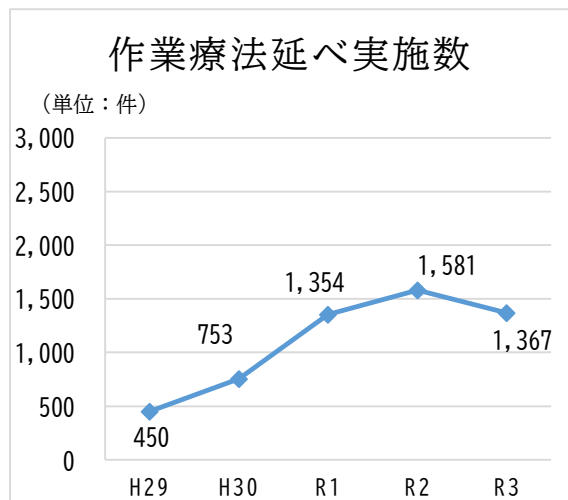
居住地	岡崎市	372	502	330	170	392
	幸田町	10	33	24	0	23

イ 年度別推移

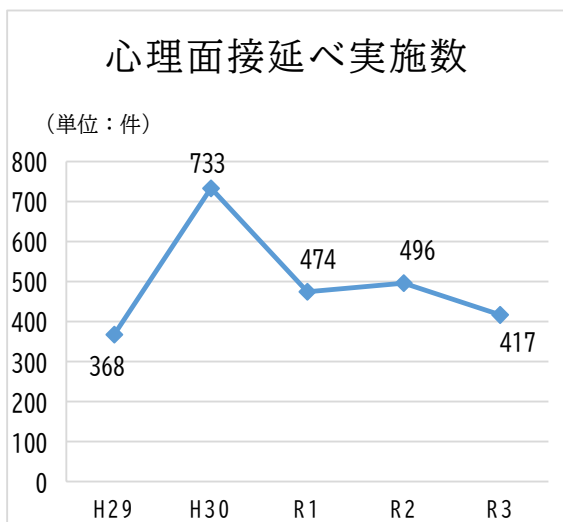
(ア) 言語療法延べ実施数



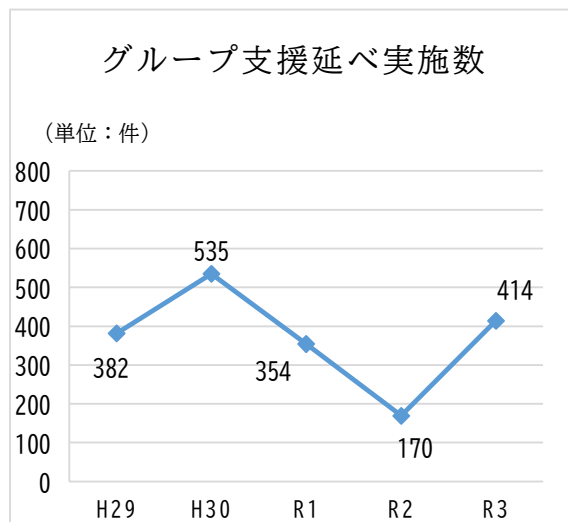
(イ) 作業療法延べ実施数



(ウ) 心理面接延べ実施数



(エ) グループ支援延べ実施数



※グループ支援は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により令和2年4月1日～9月30日の期間中止

(5) 考察

言語療法及び作業療法の実施数は平成29年度以降増加傾向にあったが、令和3年度は減少した。これは初診児数の減少に伴うものと考えられる。

心理面接は、職員の減少や他業務との調整により令和元年度に減少した以後は、概ね維持している。令和3年度は、初診児数の減少や啓発事業を拡充したことにより、やや実施人数が減少となっている。減少した分については、啓発事業の拡充等他の支援を提供しているため、支援ニーズを満たす体制が整えられている。

グループ支援に関しては、新型コロナウイルス感染症防止対策をしながらコロナ禍の前と同様に実施したため、実施数は増加している。

今後は、こども発達医療センター内の支援にとどまらず、各種啓発事業の開催や関係機関との連携を強化していき、地域のニーズに幅広く応えたい。

4 啓発事業

(1) 目的

保護者向けの講演会を実施し、子どもの特性理解の促進や、子育ての上で生じる困難感の軽減を図る

(2) 対象

医療センター利用中の年長児の保護者

(3) 従事者

言語聴覚士、公認心理師、教諭（こども発達相談センター）

(4) 実施状況

ア 年度別実績

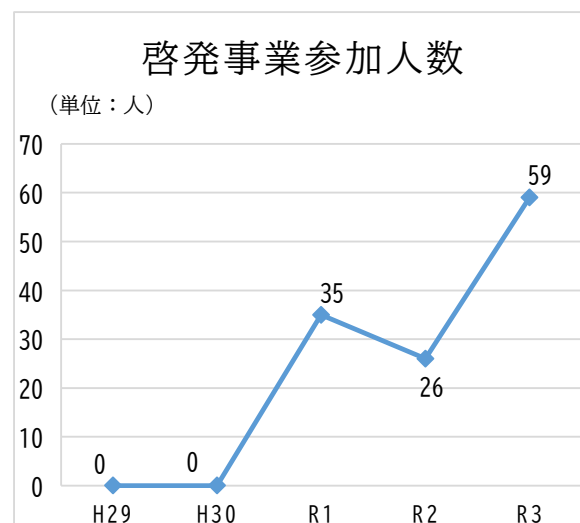
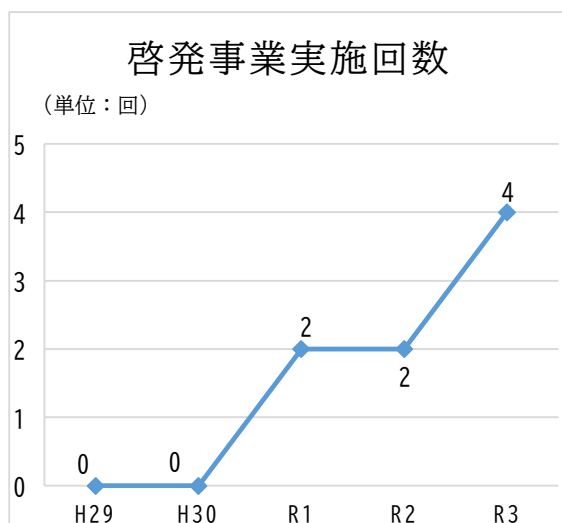
(ア) 啓発実施回数と参加人数

(単位：回、人)

区分	H29	H30	R1	R2	R3
実施回数	0	0	2	2	4
参加人数	0	0	35	26	59

イ 年度別推移

(ア) 啓発事業実施回数と参加人数



(5) 考察

保護者向けに「就学に向けた相談の仕方・引継ぎの仕方」という勉強会を実施している。就学に向けた情報は保護者からのニーズも高く、年々開催数を増やしている。今後も実施回数を増やし、より多くの保護者に情報提供できる体制を整えたい。

5 その他の事業

(1) 医学雑誌掲載

著者	タイトル	誌名
医師 中村 みほ	Williams 症候群	CLINICAL NEUROSCIENCE 2022 Vol.40 No.1

(2) 講師派遣

日時・名称等	内容	講師
令和3年11月12日 愛知学院大学 言語聴覚コース 特別講義	発達障害児支援の現場と実践	言語聴覚士 大澤 一将
令和4年3月2日 発達フォロー協力医検討会	こども発達医療センターにおける 心理士業務	医師 中村 みほ 公認心理師 柳生 翔紀

(3) 実習生受け入れ

日程	学校名等	内容	人数
令和3年 ① 5月10日～5月14日 8月10日～9月10日 ② 9月21日～10月29日	愛知学院大学健康科学科 言語聴覚士コース	言語聴覚士臨床実習	2
令和4年 2月14日～2月18日	名古屋医健スポーツ専門学校 作業療法科	作業療法士臨床実習	1

第4 こども発達支援センター

1 児童発達支援事業【単独通所(わかば)・親子通所(めばえ)・保育後療育(つばさ)】

(1) 目的

心身の発達に遅れや心配のある子どもに、日常生活における適切な習慣を確立するための基本的な動作の指導、社会生活への適応性を高めるような知識技能の付与、集団生活への適応訓練などを行う

ア 単独通所(わかば)

心身の発達に心配のある子どもに対し、小集団の中で生活習慣や人との接し方などを学ぶための療育を行う

イ 親子通所(めばえ)

心身の発達に心配のある子ども及びその保護者に対し、共に通所して、遊びや生活を通して発達を促す療育を行う

ウ 保育後療育(つばさ)

地域の保育園・幼稚園などに通う子どもが、集団に適応し楽しく園生活を送れるよう、降園後に通所し、専門職が個々の発達課題に対して小集団療育を行う

(2) 対象

ア 単独通所(わかば)

岡崎市・幸田町在住で心身の発達の遅れや心配のある3歳児～就学前の子ども

イ 親子通所(めばえ)

岡崎市・幸田町在住で心身の発達の遅れや心配のある0歳～概ね3歳の子ども

ウ 保育後療育(つばさ)

岡崎市、幸田町在住で地域の保育園・幼稚園などに通い、園生活に伴って療育支援が必要な3歳児～就学前の子ども

(3) 従事者

保育士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等

(4) 実施状況

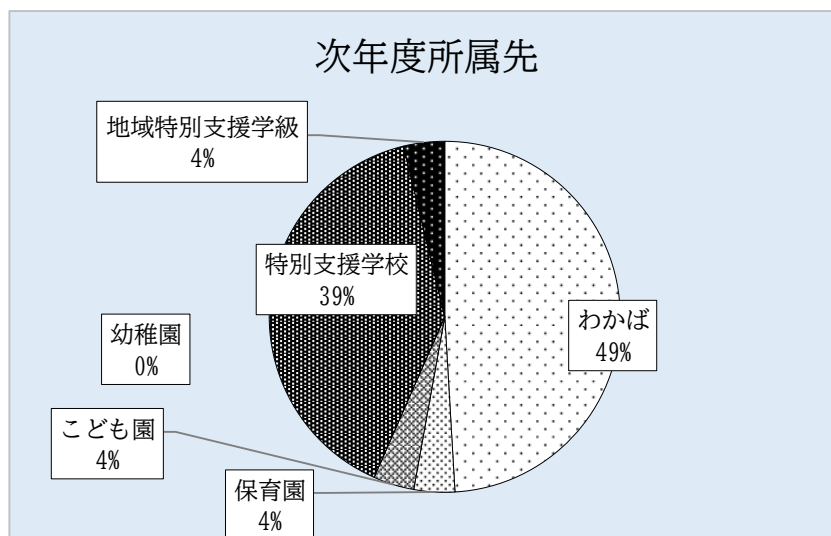
ア 単独通所(わかば)

(ア) 年度別実績(登録者数・居住地・年齢)

(単位：人)

区分		H29	H30	R1	R2	R3
登録者数		54	52	52	52	53
居住地	岡崎市	49	49	50	49	48
	幸田町	5	3	2	3	5
年齢	年少児	25	16	23	17	12
	年中児	11	23	13	22	18
	年長児	18	13	16	13	23

(イ) 令和3年度 単独通所（わかば）を利用している子どもの次年度所属先



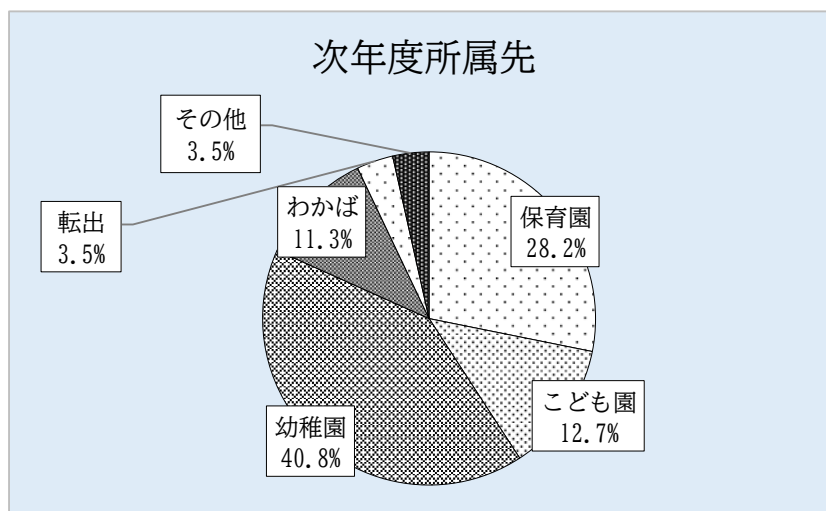
イ 親子通所（めばえ）

(ア) 年度別実績（登録者数・居住地・年齢）

（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
登録者数		139	131	151	128	142
居住地	岡崎市	126	115	131	115	130
	幸田町	13	16	20	13	12
年齢	1歳児	35	8	0	1	0
	2歳児	103	118	136	114	142
	年少児	1	5	15	13	0

(イ) 令和3年度 親子通所（めばえ）を利用している子どもの次年度所属先



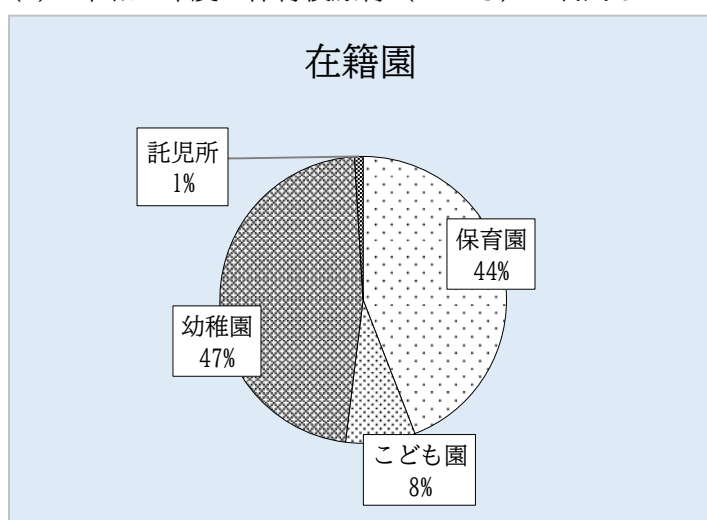
ウ 保育後療育（つばさ）

(ア) 年度別実績（登録者数・居住地・年齢）

（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
登録者数		58	103	107	96	102
居住地	岡崎市	50	87	93	81	92
	幸田町	8	16	14	15	10
年齢	年少児	35	44	35	33	40
	年中児	19	44	44	42	40
	年長児	4	15	28	21	22

(イ) 令和3年度 保育後療育（つばさ）を利用している子どもの在籍園



(5) 考察

ア 単独通所（わかば）

令和3年度は、年少・年中児の86%が継続（進級）し、年少児2名、年中児2名が地域の園へ移行した。単独通所予定定員は50名だが、年度途中の入所希望が多く、毎年予定定員を超えて受け入れている。

イ 親子通所（めばえ）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響で在籍数が少なかったが、令和3年度は前年度比約10%増の在籍数であった。途中で退所し就園するケースや、在籍園があり、保育園と並行して親子通所を利用するケースもある。

ウ 保育後療育（つばさ）

支援の必要性が高い子どもが公立こども園に集中しているため、並行通園を利用する子どもが多く、保育後療育の利用が少なくなっている。保育後療育は事業所へ保護者の送迎が必要となるため、保護者が就労している保育園よりも幼稚園の割合が多くなっている。今後も一人一人の利用者に合わせたサービス提供について、関係機関と協議していきたい。

2 保育所等訪問支援事業（あおい）

(1) 目的

障がいのある子どもが、集団生活に適応できるよう身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な支援を行う。専門の職員が地域の保育園や幼稚園、小学校等を訪問し、それぞれの子どもに合った適切な支援方法を担当保育士、教諭等と共に考える

(2) 対象

岡崎市・幸田町在住で地域の園に通っている発達支援が必要な子ども

(3) 従事者

保育士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等

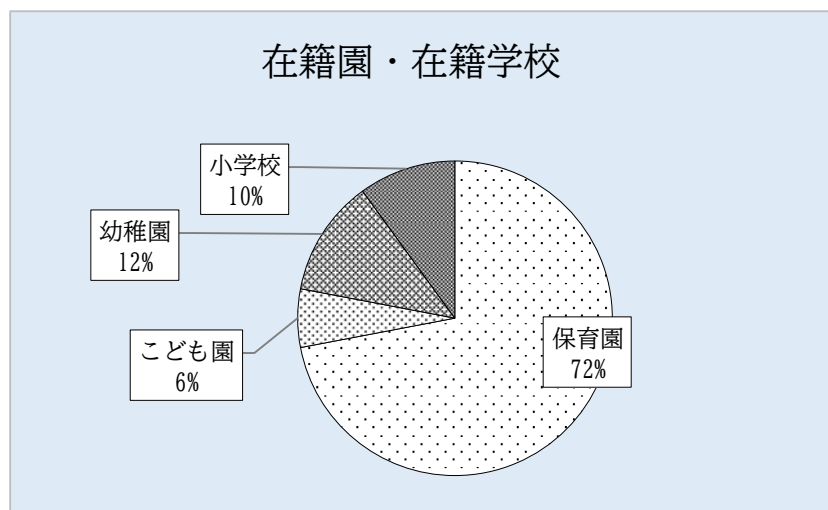
(4) 実施状況

ア 年度別実績（登録者数・居住地・年齢）

（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
登録者数		33	36	39	44	50
居住地	岡崎市	23	26	28	29	33
	幸田町	10	10	11	15	17
年齢 (学年)	2歳児	0	0	0	1	3
	年少児	21	11	15	13	12
	年中児	10	18	15	14	19
	年長児	2	7	8	14	10
	小学1年生	0	0	1	1	3
	小学2年生	0	0	0	1	1
	小学3年生	0	0	0	0	1

イ 令和3年度 利用している子どもの在籍園・在籍学校



(5) 考察

利用している子どもの在籍園・在籍学校の割合は、保育園が72%を占めている。これは、保育園は、保護者が就労していることにより、送迎を要する保育後療育等の通所利用が難しく、支援者が園等を訪問して支援を行う保育所等訪問支援事業の希望が多いことが理由として考えられる。卒園後も支援を求める保護者がおり、小学校への訪問は対象となる子どもの進級とともに学年も上がっている。

3 日中一時支援事業（たんぽぽ）

(1) 目的

児童発達支援事業の単独通所（わかば）を利用する子どもの保護者が、就労と療育利用の両立をしやすいするために、療育開始前後の時間帯に子どもを預かり、見守り等を行う

(2) 対象

単独通所（わかば）を利用している子ども

(3) 従事者

保育士、児童指導員

(4) 実施状況

ア 年度別実績（登録者数・居住地・延べ人数）（単位：人）

区分		R1	R2	R3
登録者数		8	10	11
居住地	岡崎市	8	10	10
	幸田町	0	0	1
延べ人数		881	1,497	1,857

(5) 考察

すでに保護者が働いていた家庭に対し、単独通所の利用を支援する目的で、令和元年度から本事業を開始した。保護者の就労時間に合わせて、単独通所の前後どちらかの時間帯での利用が多く、令和3年度も延べ人数が増加している。保護者が安心して利用できるようになったことが理由として考えられ、仕事を持った保護者の就労支援につながっている。

4 相談支援事業

(1) 目的

発達に心配のある子と、その保護者・関係者からの相談に応じ、また障がい福祉サービスの利用申請時の計画書の作成や障がい福祉サービス支給決定後の連絡調整を行う

(2) 対象

岡崎市・幸田町在住で発達の遅れや心配のある未就学の子ども、その家族、関係者

(3) 従事者

相談支援専門員

(4) 実施状況

年度別実績（相談件数・計画作成件数）

（単位：件）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
相談件数		2,185	3,682	3,490	3,707	2,802
計画作成件数	新規	291	305	405	431	547
	継続	667	503	336	283	255

(5) 考察

令和2年までは未就学児のみ対象として相談支援を行っていたので、就学を機に担当者の引継ぎを行う必要があった。令和3年度より福祉の村相談支援事業所と統合したことで、年齢の制限なく継続して相談を受けられ、利用者の利便性が向上した。今後も継続して他機関と連携を図り、相談支援を行っていく。

第5 SPC（PFI事業者）管理部門の事業

1 総合受付

こども発達センターの総合的な窓口として、利用者の目的に応じて案内を行う。また相談センター、医療センター、支援センターと連携を図り、スムーズに運営できるよう調整を行う

開館日 月曜日から土曜日まで

ただし、祝日法による休日及び1月2日、同月3日、12月29日から
同月31日までを除く

※医療センターは月曜日から金曜日まで開所

開館時間 8時30分から17時15分まで

2 託児室

(1) 目的

こども発達センター及び友愛の家を利用する子どもの保護者が、利用に専念できるよう、利用する子どもの兄弟姉妹を有料で預かる

(2) 対象

保護者と共にこども発達センターを利用する子どもの兄弟姉妹及び友愛の家を利用する保護者の子ども（未就学までで利用時間帯に保育所等や保護者以外による育児ができない場合に限る）

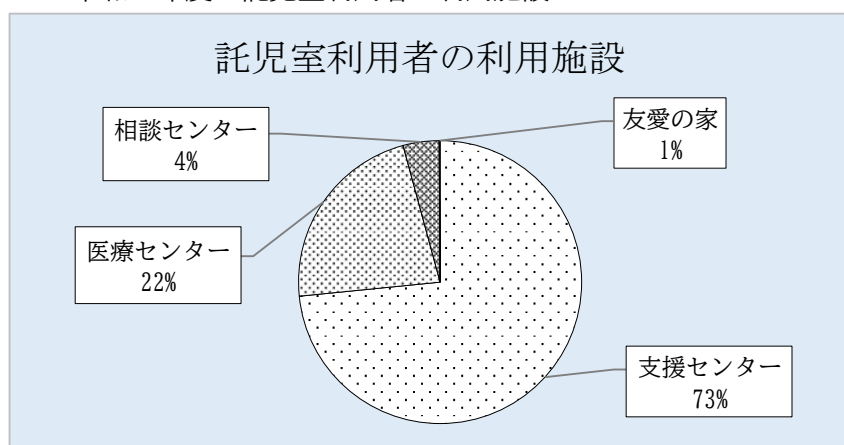
(3) 利用実績

ア 年度別実績（登録者数・延べ利用者数・居住地）

（単位：人）

区分		H29	H30	R1	R2	R3
登録者数		115	98	116	126	114
延べ利用者数		1,801	1,721	1,581	2,007	1,824
居住地	岡崎市	1,708	1,663	1,503	1,740	1,674
	幸田町	93	58	78	267	150

イ 令和3年度 託児室利用者の利用施設



(4) 考察

令和3年度の延べ利用者数は令和2年度と比べて約1割減少した。託児の利用は、こども発達支援センターの親子通所の利用者のように、単発ではなく通年で利用が多くを占めているため、利用者の入れ替わりの影響が大きく、減少理由の特定は難しいが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、いつもは託児を利用していた親子通所利用者が子どもを家族に預けて託児を利用しないというケースもあり、感染状況による影響もあったと思われる。

なお、幸田町の利用者数が大きく減少しているのは、幸田町の親子通所利用者で託児を必要とする方が令和2年度より少数であったためである。

3 オープン・スペース（一般開放の遊戯室）

(1) 目的

子どもの特性等により地域の遊び場になじめない親子に対し、社会参加のきっかけ作りを促すことを目的として気兼ねなく遊べる場を提供する

(2) 利用実績

ア 年度別実績（延べ利用者数）

（単位：人）

区分	H29	H30	R1	R2	R3
延べ利用者数	285	491	594	-	-

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月13日から利用を中止しており、令和2年度及び令和3年度は利用実績なし

(3) 考察

平成29年度の開館から利用者が増加し続け好評であったが、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、利用対象の子どもの多くがマスクの着用が難しいことから、感染防止のため令和2年度から利用を中止している。ワクチン接種率が増加し、また、施設の感染防止対策も進んでいるため、まずはこども発達支援センター利用者から再開して検証を行い、一般開放に向けて準備を整える。

4 体育館棟（有料施設）

(1) 目的

体育館及び各種会議室等を備え、こども発達センター及び友愛の家の事業で利用するほか、有料施設として一般に貸出しを行う

(2) 対象

障がい者団体、障がい児・者及びその支援者、障がい福祉サービス事業所等、岡崎市及び幸田町在住の一般利用者

(3) 利用実績

ア 年度別実績（施設別延べ利用者数）

（単位：人）

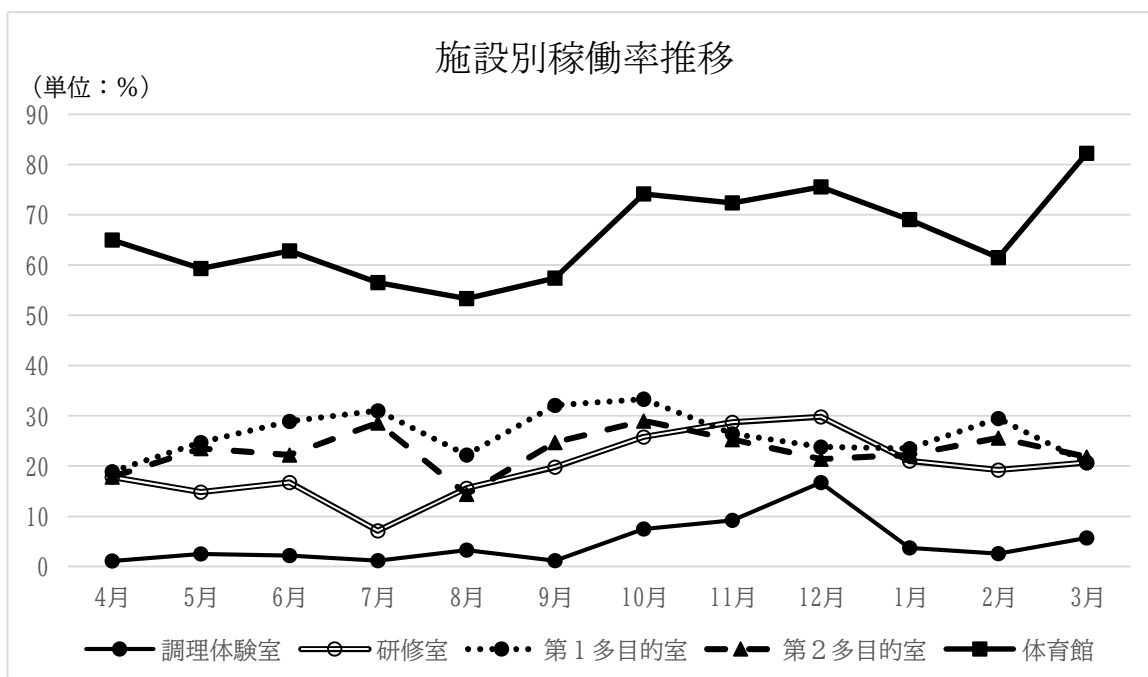
区分	H30	R1	R2	R3
調理体験室	20	580	179	350
研修室	382	3,822	3,963	4,346

第1多目的室	391	4,549	2,646	7,043
第2多目的室	397	4,097	2,755	6,318
体育館	1,992	14,506	14,980	21,320
計	3,182	27,554	24,523	39,377

※体育館棟は平成31年2月から供用開始

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月13日から5月31日及び令和3年1月18日から2月7日まで貸出しを中止

イ 令和3年度 施設別稼働率推移



(3) 考察

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため地域の小学校や学区こども家の一般利用が制限されたため、活動場所を求めた新規利用が増え、61団体の新規登録があったが、令和3年度の新規登録は32団体であった。地域の施設の利用制限が解除された影響と思われる。

延べ利用人数は、すべての施設で令和2年より増加しており全体で14,854人の増であった。令和2年度は、4月から5月までの2ヶ月間と1月中旬から2月上旬まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として施設の一般への貸出しが中止され利用者が大幅に減少したが、令和3年度は貸出中止措置がとられなかったこと、また、参加者の多い友愛の家の運動講座が体育館で開催されるなど、1回あたりの利用人数の多い利用が増えたことが主な要因と思われる。

令和３年度 岡崎市こども発達センター事業報告

発行 令和４年７月

岡崎市こども発達センター（すくも）

〒444-0011 岡崎市欠町字清水田６番地４

電話：0564-23-7564（代表） F A X：0564-23-7577

ホームページ：<http://fukushi-okazaki.jp/kodomohattatsu-center/>

（発行担当）こども発達相談センター（すくも３階）

電話：0564-23-7534・7067 F A X：0564-23-7538

岡崎市こども発達センター すくも



✿施設の愛称説明✿

施設の愛称 すくも

みんな元気にすくすく育ってほしい思いを込めて
「すくすく育つこども」を略したものです

✿キャラクター紹介✿

種 of 妖精 すーりん 葉っぱ of 妖精 くーりん 花 of 妖精 もーりん

名前の由来：施設の愛称「すくも」の頭文字からとっています

なぜ妖精なのか：常に優しく見守っているイメージがあり、頭には種や双葉や花が付いていて、成長や開花を表しています

ほっぺに桜がある：「日本さくら名所 100 選」に選定された岡崎公園や当施設に咲く桜の花びらモチーフにしました

「りん」：三河弁の語尾に使われています